

OSPDサーバUCS 240M4の交換 – CPS

内容

[概要](#)

[背景説明](#)

[省略形](#)

[MoPのワークフロー](#)

[前提条件](#)

[ステータスチェック](#)

[バックアップ](#)

[新しいOSPDノードのインストール](#)

[UCSサーバのインストール](#)

[Redhatのインストール](#)

[アンダークラウドの復元](#)

[バックアップに基づくアンダークラウドのインストールの準備](#)

[Redhat登録の完了](#)

[アンダークラウドの復元](#)

[復元されたアンダークラウドをオーバークラウドに再接続する](#)

[完了したリストアの検証](#)

[アイデンティティサービス\(Keystone\)の動作の確認](#)

[将来のノードのイントロスペクション用のイメージのアップロード](#)

[フェンシングの再起動](#)

[関連情報](#)

概要

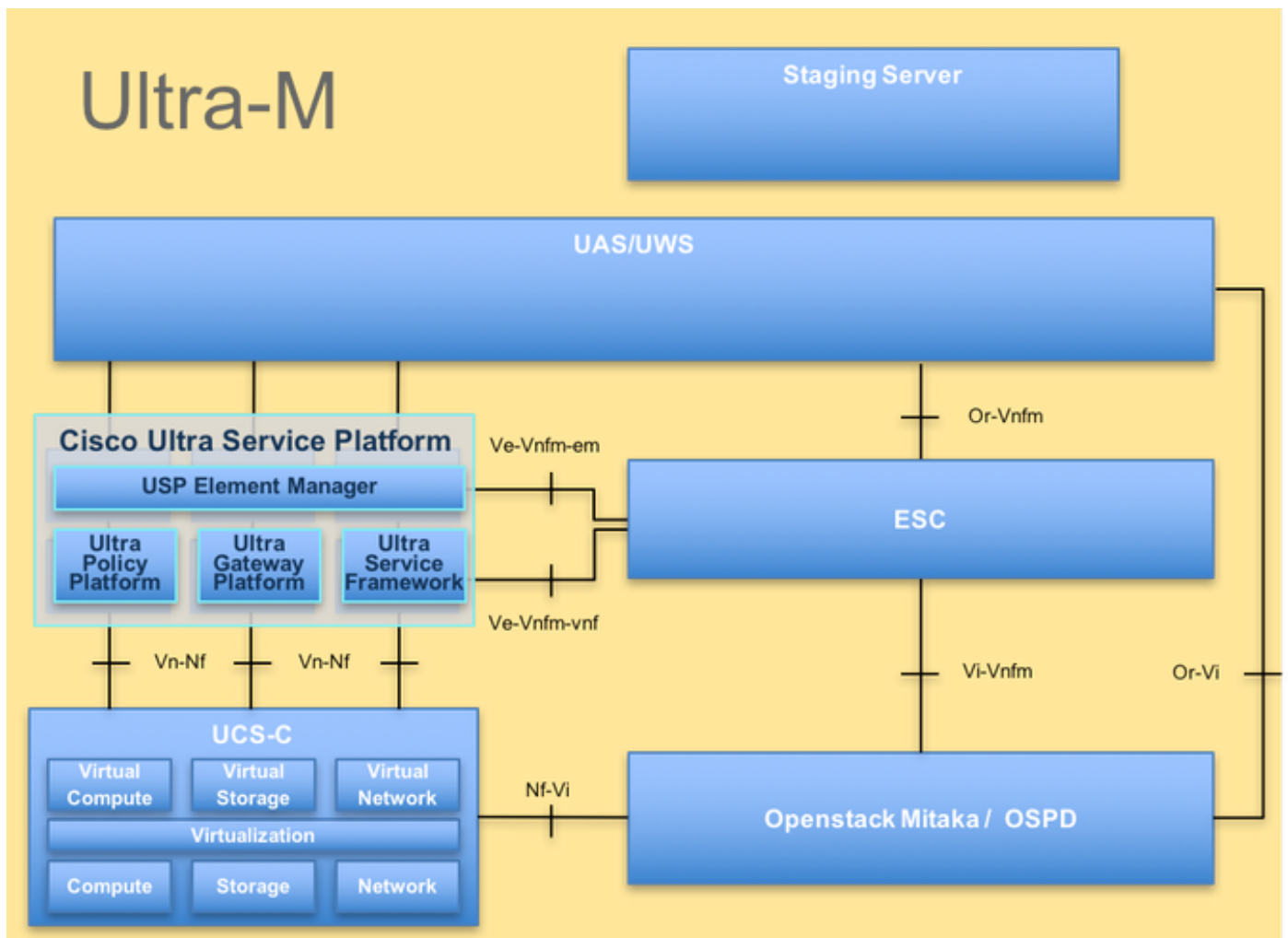
このドキュメントでは、Ultra-MセットアップでOpenStack Platform Director(OSPD)をホストする障害のあるサーバを交換するために必要な手順について説明します。

背景説明

Ultra-Mは、VNFの導入を簡素化するように設計された、パッケージ化および検証済みの仮想化モジュールコアソリューションです。OpenStackは、Ultra-Mの仮想化インフラストラクチャマネージャ(VIM)であり、次のノードタイプで構成されています。

- 計算
- オブジェクトストレージディスク – コンピューティング (OSD – コンピューティング)
- コントローラ
- OpenStackプラットフォーム – Director(OSPD)

この図に示すように、Ultra-Mの高レベルのアーキテクチャと関連するコンポーネントを示します。



UltraMアーキテクチャ

注：Ultra M 5.1.xリリースは、このドキュメントの手順の定義を目的としています。このドキュメントは、Cisco Ultra-Mプラットフォームに精通したシスコの担当者を対象としており、OSPDサーバの交換時にOpenStackレベルで実行する必要があります。

省略形

VNF	仮想ネットワーク機能
ESC	Elastic Service Controller
MOP	手続きの方法
OSD	オブジェクトストレージディスク
HDD	ハードディスクドライブ
SSD	ソリッドステートドライブ
VIM	仮想インフラストラクチャマネージャ
VM	仮想マシン
EM	エレメント マネージャ
UAS	Ultra Automation Services
UUID	ユニバーサル一意Identifier

MoPのワークフロー

